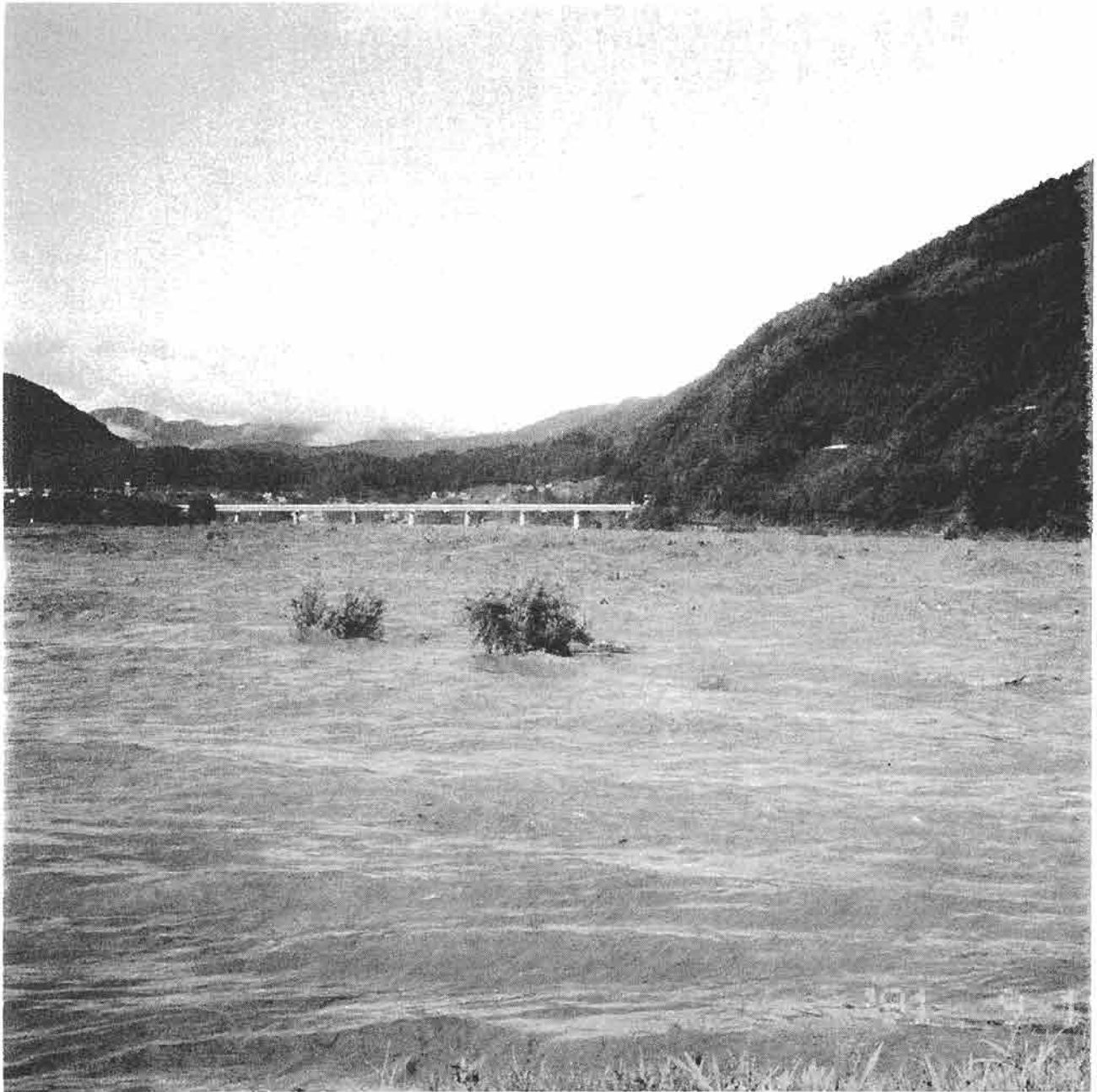


# 中川根ふる里通信

## = 第23号 =

編集・発行・モ7.57中川根  
 連絡先 〒428-03  
 静岡県榛原郡中川根町  
 上長尾859-6  
 ふる里通信部  
 郵便振替口座  
 <名古屋> 7-81556



# 台風18号、濁流の大井川

9月19日、高郷前土手より橋 = 中徳橋

# 鈴木七藏氏逝去



平成三年八月十五日卒

享年 八十一歳

田野口



元中川根町長 町議会議長など、長年にわたり、中川根町の為に尽力をこらされ、お正月すぎ、体調が悪く、静岡の病院に入院され、早く元気なお姿で退院帰宅されましたが、事と皆願っており、早逝された。ご家族の渾身の看病の甲斐なく、来世へ旅立たれました。

鈴木さんが町長(村)として、就任されました期間は昭和三十五年(一九六〇年)から四十二年(一九六七年)まで、徳山に県立川根高校が新設され、中川根中学校も統合され、故原軍一氏も県議会議長に就任され、南赤石林道も開設されるなど、中川根町がすばらしい発展をとげた時期であったと言えましょう。

それには強い指導力と高い知性を兼ねてくれた鈴木さんの、ご尽力があったからこそ、成し得たことであつたと思われまふ。

町長職を退かれた後も、各種団体長を、つとめられ、また、静岡県、静岡県、農林省、農水省など、幅広く活躍されました。

数年前、退職された後は、盆栽、読書、執筆と、静かな生活をなさっていられたと聞いております。

八月二十五日、智満寺にての葬儀には、鈴木さんに別れを惜しむ人々で一杯になりました。鈴木さんの歴史の一部分を、ご紹介いたしますと共に、ご冥福をお祈り申し上げます。

## 公職歴

- 昭和九年、昭和十五年、昭和二十二年、昭和三十一年、昭和三十三年、昭和三十五年、昭和三十七年、昭和四十三年
- 志太郡徳山村収入役
- 志太郡徳山村議会議員
- 同 副議長
- 同 議長
- 中川根村議会議員
- 同 議長
- 中川根村長
- 中川根町長

## 団体歴

- 昭和四十年、平成三年、昭和四十三年、昭和四十六年、昭和四十八年、昭和五十二年、昭和五十八年、昭和五十九年、昭和五十七年、昭和五十八年、昭和五十七年、昭和五十五年、昭和四十六年、昭和五十五年、昭和五十六年、昭和六十二年、昭和五十六年、昭和五十九年、昭和五十九年、昭和六十二年、昭和五十九年、昭和六十二年
- 智満寺総代 護寺会会長
- 川根茶業組合長
- 中川根町森林組合長
- 中川根町商工会会長
- 川根ライオンズクラブ会長
- CN十周年式典委員長
- 大井川木材林産協同組合長
- キタノイ農協同組合理事
- 同 組合長
- 静岡県経済農業協同組合連合会監事
- 静岡県共済農業協同組合理事
- 静岡県厚生農業協同組合連合会理事

## 受賞

昭和五十七年四月二十九日

勲五等雙光旭日章受賞員

(地方自治功労)

# ふる里の建物 大泉院 徳山

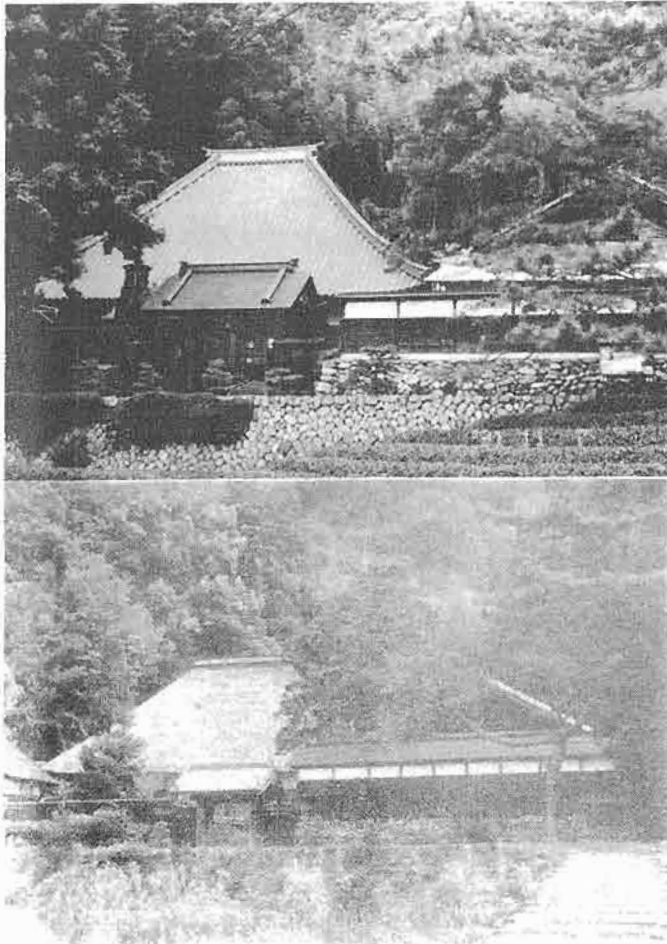
徳山地区の北側背に無双連山むすぶつれんより派生する尾根を受けて大泉院があります。町の文化財として本堂・山門・石階の戸けさが指定されており、希少価値の高い寺院となっております。今回は寺の歴史も兼ねて紹介致します。

山号寺号「豊源山大泉院」 宗派「曹洞宗、如仲派」

法系「元安倍部井川上田村、龍泉寺末寺（現静岡市中）」

住職「第二十五世 至道徳孝和尚」 俗姓「雨見氏」

元天竺宗、往古「岩本山」の山号があります。寺号が当時も大泉院であったか否かは不詳です。古来、土地の豪族、土岐氏（徳山城主）の菩提を供養して、いいます。無双連山頂の徳山城跡南面の山地には寺領として山林が現存しておりますが、これについては南北朝時代（一三三三〜一三九二）土岐氏の寄進によるものと



現在の大泉院(上)と昭和20年代の同寺(下)

見る以外、寺伝の説もないと言われています。門前境内に祀られている白山権現もこの頃かと推定され、同所に聳える老杉もまた樹令セロロハ呂年かと推定されます。

天正年間（一五七三〜一五九三）

の初期、井川龍泉院第二世により改宗（曹洞宗）されています。寺伝の袈裟けさには天正十六年（一五八八）の年号が明記されています。

現在の本堂は、享保年間（一七二六〜一七三六）第六世である

演聴門説大和尚えんしやうもんせう代の造営で、このとき従来から本尊とされた千手観音を釈迦如来に改めたと言われています。

因みに、本堂須弥壇じゆみだんの両側を巡る欄干の柱の裏側には「造

営記録が墨書きされている。曰く「享保五庚子年（一七三〇）八月十三日萱大工象（屋根葺）本堂大屋根の完成かと思われ

ます。遠州中泉村（氏名消失）岡田村（氏名消失）ニノ宮村（氏名消失）など数名見取れます。いずれも氏名の部分のみ墨が消えておりまして判読は困難となっております。

写真下で見る様に昭和二十年代まで本堂は萱葺きとされておりまして、萱の調達が困難なため三十年間位は赤イトタン葺き、二年ほど前に現写真の様な銅板葺きの大屋根が完成しております。（昭和三十三年徳山地区大火の際、附近の萱屋根の家は次々延焼して行きまして、本堂は、トタン板を覆った後で、延焼を免れたとも聞いております。）



美しい本堂大屋根

全国茶品評会日本一の栄誉獲得

普通煎茶の部

農林水産大臣賞

相藤久行さん

藤川

手もみ茶一等一席

大島直一さん

一等二席

大島末次さん

水川

今年度の全国茶品評会は、八月二十七日から四日間、静岡茶市場で行われ、普通煎茶など七種類の茶に、協賛出品の手もみ茶を併せて、合計八百十五点の出品がありました。

中でも「普通煎茶」の部で相藤久行さんが、二百点満点という高成績で、一等一席農林水産大臣賞を獲得。また本大会協賛部門である「手もみ茶」の部で水川の大島直一さんが一等一席に輝きました。

普通煎茶日本一、しかも二度目の伏拳を成し遂げられた相藤さんは、「川根茶の名声を高めるために毎年挑戦。不足な点を補いながら出品。この十一年間は、大変勉強になりました。これからも喜んで飲んでいただけるお茶作りには頑張ります」と受賞の喜びを話してくださいました。

手もみ茶で一等一席を獲得された大島直一さんは、地域茶業に力を入られ手もみ保存会の役員をされている大島末次さんの長男。大島さんは、「お茶の心を知る手もみ茶は若い頃から親父に教わってきました。近くにも多くの先輩がいるので、早く追いつきたい一心で手もみから機械もみに入ります。毎年春に手もみをして出品。秋に審査の結果が出るのが楽しみ。一年間の励みにもなります」と話していました。



2度目の栄誉 農林水産大臣賞 受賞

一等一席・農林水産大臣賞受賞の茶園にて  
相藤久行さん 妻 節子さん

川根茶の味と香りの伝統を培う

代々続く茶づくり「日本一」

すべてを物語っているのが、親子三代、それぞれが「日本一」の座に輝いた経験の持ち主、相藤久行さんのこの一家です。

相藤さんの住む藤川地区は、これまで多くの全国優勝者が続出という銘茶の産地。相藤さん自身も毎年のように、全品、果品に出品し、上位入賞は果してしながら、今一歩という年が多かったようです。そこで今年こそは、再び「日本一」の座を奪還しようとして、十年目の挑戦となりました。

現在八十五アールの茶園面積は、オール「やぶきた」の品種比率100%



茶の心、手もみ日本一の大嶋さん親子

「手もみ茶日本一」に輝いた 大嶋 直一さん親子

三十五キロセットの製茶施設を持つ自園自製経営です。相藤さんが、お父さんの良雄さんから茶業を引き継ぎ自ら本格的に取り組んだのが昭和五十年から。「十年前はとにかくがむしゃらでしたが、今になっては少しゆとりが……。共同の工場との比較では、労力的、経営的にも木打打ち出来ない面もあるが、川根茶の品質をより高める為にも地域の仲間と共に頑張っていく予定です。茶業をとりまく環境は厳しく、より良いお茶を安く作れば消費も増えると確信しています、これからは次の世代(後継者)のためにも茶業の基礎づくりと農業のイメージアップが私の仕事です。」と抱負を話してくれました。

### 手もみ茶の仕上りが理想 父親末次さんに学び 二十五年

「春一番に手もみをして、秋の審査結果がたのしみ。」という大嶋さんは、その年のお茶の出来具合を占うかのように、毎年新茶の機械もみへ入る前、川根の高級茶をめぐり、お父さんの末次さんと、茶の手もみと行い品評会へ出品しています。

大嶋さんは、奥さん、ご両親、二人の息子さんの六人家族、茶園面積ハロアールの自園自製と、しいたけ栽培の経営を行う専業農家です。

大嶋さんは昭和四十二年から二年間、農林省茶業試験場の研修生として、基礎知識を身につけ、地元水川農事研究会、川根茶手もみ保存会に入会し、上級茶づくりのための研究・努力に精励しています。

大嶋さんは、ご案内の通り、親子で一等一席二席を獲得された名実ともに手もみ茶日本一の一家です。「茶温が上がりやすいように熱の調整と、味・水色に気を配り、風力に細心の注意を払いました。地域には多くの先輩がいますので、早く追いつきたい一心と、川根茶の名声のために、これからも挑戦を続けます。」と喜びと抱負を話してくれました。

### 広報

キタハイ 10月11号より



センブリ 別名 トウヤク

## 「ふるさと」を考える

細田 洋司（徳山）

小学唱歌に登場する「ふるさと」は、「鬼追い」かの山、小鮎釣りのかの川である。そのふるすとは「山は青く、水は清く」澄んでおり、「志を果して、いつの日にか還る」とをめぐったものとして存在している。

この唱歌は、私たちよりずっと前の世代の人たちから、ずっと後の戦後の世代の人たちまで、小学校で教えられ、歌ってきたものである。しかし、この歌の内容をみると「ふるさと」は、懐旧の情に浸りながら、曖昧に描くものであり、さらに「ふるさと」は、いったんは捨て去られ（または置いてきぼりにされ）再び志を果したのち（功成り、名遂げ）ということであろうか）戻ってくるころとして描かれているのである。

ふるすに生れて、そこから外へ出ることもなく、今日迄きた私たちにあって、この歌の意味を考えると（これは甚だ遠きに失した感があるが……）なんともやりきれないものがある。

また、この歌が、過去何十年にもわたって、大ぜいの人たちに歌いつがれてきたということにも、また矛盾を感じるものである。誤解のないように付け加えて置くが、私は、この「歌」そのものを中傷しているものではない。曲も歌詞もすばらしいものであり、名曲の一つに入るものであると思っているが、歌詞の意味について取り上げているのである。

あえて申し上げるならば、この歌は、「ふるさと」を離れた人たちに、とっての望郷の歌なのであって、ふるすにそのままだに住んでいる人たちの歌としては適当でないということなのである。

「ふるすとは遠くにありて想うもの……」と、昔の歌人は詠んだ

……が、一脈相通するものがあるといえよう。

それはともかく、敗戦後から四十年を越える歳月が流れたこんにち、「山青く、水清きふるさと」であるべき、中川根町が、これらの人たちの眼に、いま、どう映っているのであろうか。

志を果して（志を果さなくても別に構わない）と私は思うのだが……）還るにふさわしい町としての魅力をどの程度に持っているのだろうか。そんなことを考えると、あまり穏やかな気持ではおられないような心にもなる。

一方ふるすを離れずに暮してきた「ともがら」の生活は、この数十年間を振りかえるに、「つつがなし」とはいきれないものがあったことも、また、事実である。

とはいえ、それを理由に、いまのこの町の状況を是認してほぐしいと、それらの人たちに言うだけの厚かましきも持ち合わせてはいないわけであるが、かといって十二分にがんばってきたと、強く主張できるようなことも、あまりたくさんはなかったような気がするのである。

時の流れに流されなから、なんとか、生活をしてきたというのが現実なのである……。

川根地区三カ町の人口を合わせても、金谷町の人口の八割に満たないという現状の中で、私たちは「ふるさと」をどうして維持発展させていくかを考えていかなければならぬのであるが、その渦中に入っている者には、気付かないことが、たくさんあるものである。

これらについて、この町を「ふるさと」として、お持ちの方がたからのための眼から見た忌憚のない指摘を賜りたく、願いますものである。還るにふさわしい（一時帰休も含めて）「ふるさと」であってほしい、ということとは、ここに生活の本拠をもって私たちが、まっ先に頼っていることだからである。



# 陽春に松の緑新たに

正月といえはます思ひ浮かぶのは門松である。

あお一色の清楚な門松はウラボをあくらいユズリ葉を付け家の安泰を願う。すがくしい正月を迎えるにふさわしい飾り物である。

正月の入口それが門松であり、門松をくぐる事に依って新しい年を迎へ一ツ年を重ねるゝが旧来の風習であった。(今では誕生日を迎えて年を一つ加えるようになった。)

門松や とまの歩みの一里塚

門松は けに分別の一里塚

門松を立てる際にはそれぞれに、いろいろな思いをもって行う事だらう。今年こそと心に活を入れる人、一年が終わってしまつたなあと思う人、だんくりに老いに近くなると思う人、ともあれ正月が年の区切りである以上、正月を迎えればいや心なしにとま(年)が一步さきに進むわけである。

幼い頃、貧しい家計の中から父と母が用意してくれた真新しい足袋と肌着を身に付けてもらい霜柱の立つ道を氏神様に詣り小学校の式に参加し、一月一日の歌をうたった頃が思い出される。正月には、歳神を迎へ新たな年の平穏と豊饒を祈る信仰がある。歳神を迎えるにあたって神の依代(よりしろ)として門松を立てて神を待つのである。神の降臨する神聖な木、それが門松である。

門松は古くは十二月十三日に「松迎へ」をするしきたりがあったが現在では十二月二十日から二十八日の間に立てるようである。(最近当地では飾り物売りが店を開くのが二十七日から三十日の夜までである。)二十九日に立てるのを「九松」(苦待つ)三十一日に立てるのを「一夜松」又は「一夜飾り」と云い(誠意

のない意)と云って忌み嫌う。

門松の立っている間を「松の内」という。松の内はまだ正月気分が失われず仕事に何となく気の入らぬ初春情趣がたたよっている。

門松を取り扱う事を「松納め」(松送り)というが、その日は風習に依っていろいろで東北では四日、関東では六日、関西では十四日夕方に行うようである。江戸時代には十五日まで門松を立てていたが、寛文二年(一六六三)にお布令が出て、七日の朝に取り扱うようになったとの事である。

門松に竹を添える様になったのは室町時代で「松は千歳、竹は万代を契る」として長寿を願ったものである。それが江戸時代に急速に庶民に普及したのは、徳川家康公が松竹を立てる事を奨励した為と云われている。

渋谷区幡ヶ谷 松下金五

(下泉出身)



松下さんから寄稿いただいたのは一月も終りごろ、本年度新年号(冬の号)にお載せできなかったため、来る年平成四年の為に今回載せさせていたいただきました。

ふる里の門松は、三十日(十二月)にたてるお宅が多い様です。

しかも、檜の杭に松だけの簡素な門松が主流でしたが、近年は、松竹や松竹梅、やしの縄などの門松も見られます。

松納めは、関西風十四日が主流で、納めた後は、神をさす風習が残っております。



# 台風十八号及び前線による大雨で

## 大井川大洪水

今秋は日本列島各地、台風に見舞われて、風害、水害の爪痕が生ましく、残され、農作物の被害も甚大で、改めて自然災害の恐ろしさを実感させられた。

それは、八月月中旬から始まった長雨は、十月末まで続き、至高と続晴れの日は、教えるほどに思われる。雨又雨の日々でした。

台風十八号は九月十九日、午後大井川に大洪水をおこしました。中川根地区は徳山地区が浸水の被害を受けました。大井川鉄道の線路へ徳山地区、山一町さん北側、青部側)に、満水になった大井川が

東りへれ、地区に流れ込んで来たり、第一小学校へはあと一センチで校舎に入るほど水が増え(校舎は運動場より高い)、森之段横の湿地及低地は入り水で、床上浸水三戸と大変な被害を受けました。その他、畑地の冠水など大井川に面した低地が被害を受けました。昭和三十五年頃から、洪水の度に浸水があつた高郷地区は、今回は浸水しませんでした。

なお、本川根町では、田代地区にある本川根中学には、校舎一階まで浸水し、先生方は二階より避難されたり、同地区の工場は水没してしまふほどの大被害を受けました。

台風十八号は、北側に大きな雨雲を従え、動きもおそかつた為、山間部は、十八日より雨が降り続いておりましたが、それにしても、午後三時ごろの大井川の出水のありさまは、ふだんの洪水の様子と異なっていました。

私用で榛原町の方へ朝出かけますと、榛原はほとんど雨が降っていませんでした。午後大井川にそつた果道を帰って来ましたが、大井川はかなり増水はしていましたが、満水には、未だくの状態で、水窪あたりは、時間雨量が記録的で、河川の氾濫行方不明者もあり、雨雲は東に移動してあります。……のラジオ放送を聞いて、しばらくすると雨はやみ、青空が見えて来ました。(表紙写真参照)「たいした雨にならなくて良かったね」と大井川、堤防へ行つて見ると、それは、それは、恐ろしい濁流がせきを切つた様に流れ、荒れ狂っているではありませんか。

もちろん満水、波の大きき、高さにおどろき、おびた。流木、ドラム缶など、波上に躍る様に流れ下るさまは、驚異そのものでした。ここ、三十年來一番の水量(流量)に感じられました。高郷地区水門付近の水位は、たゞ重なる浸水被害を受けた時より、ずっと低い状態でした。それは、中部電力塩郷堤以下、大井川に水をもどそうの運動前より、大井川の河床に堆積した砂利を



水没した第一小学校 校庭



床上浸水した徳山地区



取りのぞき繞けて下った施策が、常に水害に見舞われて来た。高郷地区を救ってくれたものと考えられます。

今回の洪水は、上流本川根町地内に設けられつつある、多目的ダム、長島ダムの仮堰堤が、予想をこえた洪水に耐えきれず、破戒されてしまったとか、ダム放水時の誤りとか聞かれますが、真相は判りません。

ただ、北遠地域に降った記録的雨量……が南アルプスにも大量に降り、どこかに大量に溜って、いっきに流れ出した鉄砲水の流れの洪水であった事は、確かだと考えられます。三、四十分もすぎると水の勢いは次第におさまっていったからです。

久しぶりに見舞われた大井川の大洪水は、改めて川の驚異を見せつけてくれました。大型ダムは洪水調節の役目もしてくれ、との事ですが、下流域の流れの予想がたてられないのが現実の様です。過去高郷地区の浸水は上流ダムの放水によってなされたからです。長島ダムも洪水調節も目的とされているようですが、予想をはるかに上回る雨量だったとの申され方で、放水する事能が無いとは言えません。自然の力は人間や機械でコントロール出来無い事も多々あります。

川の作用、我が中流域は、運搬作用となっておりすが、下流域の堆積作用も大いに進んでおります。したがって、川が流れれば地形が高くなるの条件も所々あてはまったりするので、

中流域の堆積には、自然的条件（蛇行、狭隘など）と人工的条件（ダム、橋など）があります。洪水時には川の狭まった場所の前後方（特に後方）に堆砂は進みます。塩郷堰堤は、出水の際、ゲートを全開するから堆砂は無いと説明されますが、もともと狭い場所に橋柱も何本も建てております。したがって、洪水時には、水は淀む事は必然です。



台風十八号は、流木や、山スチロール、など様々なるものを、下流域に残していったくれました。中には直径数メートルのヒューム管もありました。ひと昔、前ですと、川原木（かわらぎ）は貴重な燃料先を斃って印づけに石を乗せたりしたのですが、現在、その様な姿はどこにもなく、……と傷ついた体を横たえています。それよりも何よりも、又、堆砂と云う贈り物を残して行きました。川添いの地域を浸水から守る事に堅固な護岸がある事はもちろんですが、大井川の石や砂利を取りのぞいて、河床をメートルでも一センチでも低くする事が肝要であることが改めて判りました。これからも、いつ到来するか判らない大洪水にせよ、大井川、又支流の川の河床を下げる様、地味な努力とは存じます。堆砂除去の施策を取り続けていた、と願っています。

冠水した大鉄線路と  
入水を防いだ上巻(徳山地区)

大井川の濁流

左ページより続く。 敬省略 ( )内は国内国際の出来事

昭和 18年	1943	村長に勝山次郎就任。4月青年学校独立校となる。1.7 モンバラ山火事 (2.1カ「ガルカナル」より戦進。5月山本五十六元帥戦死。12.1 第1次学徒兵入隊) (整邑遺跡発掘) 9.16 井沢末雄台湾で戦死(下泉)	村誌
19年	1944	2月 徳山村農業公設立。下泉橋流失。5.10 坂本利郎南方で戦死 (サバ)見て日本軍玉砕 東条内閣倒れ小坂内閣成立) 8.8 坂本通郎ソロモンで戦死 (8.4 学徒疎開始まる。学徒勤労令。女子勤労挺身令公布) 8.18 竹下義郎一海峽で戦死 8.18 山本寿雄バミ-海峽で戦死。7.8川中徳中マリヤで戦死。12.20 西原全明レテで戦死	・
20年	1945	5.29 日本戦艦瑞 日27に体当り 東川根に墜落。8.29 竹下三郎清洲で戦死 6.30 青年団を解散。徳山村学徒隊結成。8月青年連盟落成。10.5 柴田謙上海で戦死 10.20 下泉中着青年団結成 (1.13 東南海大地震。4.7 鈴木内閣成立。6.26 静岡大空襲 8.15 大東亜戦争終わる。8.17 東久通内閣成立。10.9 幣原内閣成立。12.9 農地解放令公布)	散華 村誌
21年	1946	八幡神社 村有林伐採(下泉) 食糧生産。1月オオケ山新炭供出。新3万束炭2千俵。6月青 年団表彰。2月徳山村青年連盟結成。12月村農地委員会委員選挙(4.10 衆議院議員選挙。11.3 日本国憲法公布)	・
22年	1947	4月統一地方選挙。村長竹中節雄当選。小学校 新生徳山中学校開校。村青年団。村婦人 会新生。4.6 J左之内駅前大火。8月村食糧調整委員会設置(4月参事院議員及統一地方選挙。11.3 衆議院議員選挙)	・
23年	1948	徳山村消防団設置。6.5 小倉井大火。中学校下泉分校設置。8月村衛生会発足 11月村農業調整委員会発足。4.18 徳山村農業協同組合発足。島田信用組合下泉へ 支店をつくる。(極東軍事裁判終り戦犯処刑。11.1 教育委員会発足)	・
24年	1949	4月 泉徳橋(水川。徳山間)開通。4.29 下泉橋(下泉。下長尾間)開通。農協役員選挙 8.16 丸岡秀子先生講演会(地名小)。12.1 大井川鉄道電化(1.23 衆議院議員選挙 中華人民共和国成立。8.16 古橋玄之進水上屋手権世界新記録)	・
25年	1950	2.22 中学校地名分校新築。堀之内排水工事始まる。=31年完工。総工費4,360万円 7.3 上川根村役場全焼(6.25 朝鮮戦争始まる。8.10 警察予備隊発足。 6.24 衆議院議員選挙。9.24 小学校給食始まる)	・
26年	1951	4月 農協役員。村長。村議選挙。村長に竹中節雄再選。7月農業委員会発足 11.7 東農協青年連盟発足(追放解除始まる。9.8 対日米和条約調印。 日米安保条約調印。5.27 貞明皇后逝去。9.1 民間放送始まる)	・
27年	1952	地名土地改良組合設立。堀之内で赤痢大発生。10.5 村農教育委員選挙 10.10 電源開発対策協議会 (5.1 マーチ-流血事件。7.21 破壊活動防止法成立。10.1 衆議院議員選挙。 10.10 皇太子立太子式)	・
28年	1953	3.31 中学校下泉分校廃校。7.7 総合開発協議会。川根茶業組合設立 7.20 集中豪雨(象山大鉄橋流失) (1.4 秩父宮逝去。4.19 衆議院議員選挙(バカヤロ-解散) 2.1 NHKテレビ放送開始 6月内灘基地反対運動)	・
29年	1954	3月村国民健康保険事業再開。4.21 茶凍霜害。8.5 徳山水道通水 8.7 川根茶業合館落成(3.26 教育2法案成立。4.21 造船監獄始まる 9.14 映画「二十四の瞳」封切。3.1 第5橋竜丸ヒキ=環礁で水爆被害を受ける)	・
30年	1955	4月 地方選挙。村長に松本藤重当選。9.27 下泉小学校新築。12月万世橋 (藤川。徳山間)開通(2.27 衆議院議員選挙。9月砂川基地闘争。10.1 国勢調査 6927万人)	・
31年	1956	4.30 凍霜害。7.30 村議会にて中川根村との合併と決議。 7.24 農協下泉支所取こわし。9.28 徳山村役場閉方式 10.1 中川根村徳山村合併。10.26 合併祝賀会 (12.8 日本国際連合加盟決まる。ソ連との国交回復)	・
32年	1957	2.4 村議会議員選挙。3.1 徳山大火。11戸全焼。3.27 横郷セト山火災 5.15 凍霜害。10月 静岡にて国民体育大会開催。 (1.18 牧野富太郎博士死去。9.10 日本農民組合統一。10.8 ソ連人工衛星打上げ)	・

松下麟一さん(下泉)に寄稿いただきました「ムラのあゆみ」いかがでしたか。  
下泉地区。旧徳山村を中心に国内国際関係の出来事と年表にして下さったおカに  
敬意を表します。昭和31年合併により中川根村となり37年町政と施行して。早。我が  
中川根町は30年となっております。

# ムラのあゆみ その三

出典はほとんど徳山村誌、産業組合関係書類

年	西暦	ムラの出来事	出典
大正 10年	1921	村長に勝山次郎就任。(4・4米穀法成立)(11.13高橋内閣成立)(インド紅茶復種で日本茶輸出減少著しく非常事態となる。)各集落ごとに若芽摘み推進。茶業危機突破対策講義	村誌 茶業史
11年	1922	(4・9.日本農民組合結成。)(6・12加藤友三郎内閣成立)	
12年	1923	7.4(田)田野口信用販売購買利用組合設立。10.25(三)地名信用販売購買利用組合設立。(9・1関東大震災。9・2.第2次山本内閣成立)	村誌
13年	1924	全村に電線架設。電灯点灯。(1・7.清原内閣成立)(6・11加藤高明内閣成立)	・
14年	1925	村長に大川胤作就任。青年団服制定。川根3ヶ村(中・徳・下)青年連盟発足(8・2.第2次加藤高明内閣成立)	・
15年	1926	村立青年訓練所設立。(1.30.若槻内閣成立)(12.25.大正天皇崩御)	・
昭和 2年	1927	村忠魂碑建立。全国産業組合大会で"村内の3組合が茶・推茸を展示即売(3.14金融恐慌始まる。)(4.20田中義一内閣成立)	・
3年	1928	斉南出兵に13人従軍。6.21徳山郵便局。役場間電話開通。(2・20初の普通選挙施行。3・15共産党大検挙。6・4張作霖爆殺事件)	・
4年	1929	村長に大川胤作就任。(3・5山本宣治代議士暗殺。7・2浜口内閣成立。4・16.共産党大検挙)	・
5年	1930	徳山村青年団文部大臣表彰。(10.1第2回国勢調査。6445万人)(11・26静岡伊豆大地震。254人死亡)	・
6年	1931	(9.18満州事変起きる)満州事変に徳山村より4人従軍。(12.13犬養内閣成立)	・
7年	1932	久野脇橋架設。(5・15五・一五事件。5・26斎藤実内閣成立)	・
8年	1933	大川胤作村長に就任。医療組合。共生病院設立。(2・24国際連盟脱退。12・23皇太子誕生)	・
9年	1934	勝山平四郎村長就任。徳山村婦人会設立。(秋)川根茶業大会開催。第1次徳山村経済更生計画樹立。(7・8岡田内閣成立。9・21室戸台風)	・
10年	1935	川根産業組合青年連盟結成。村立青年学校設立。(3校)(東北の食糧事情最悪事態となる。天皇機関説事件)	・
11年	1936	徳山村施業森林組合設立。(2・26ニ・ニ六事件)(3・9広田内閣成立。日独防共協定。ベルリンオリンピック)	・
12年	1937	第2次徳山村経済更生計画樹立(9・7支那事変起きる。支那事変。大東亜戦争の従軍者551人)(2・2林内閣成立。12・15第1次人民戦争事件)	戦死108人(下原13人)
		3月中徳橋(田野口—上長尾)開通	戦傷4人 11.29前田幸次郎(下原)顔面を戦死
13年	1938	勝山平四郎村長就任。(4・1国家総動員法公布)	・
14年	1939	徳山村警防団設置。堀之内信用販売購買利用組合設立。(1.5平沼内閣成立。4.26青年学校義務制となる。5.11ノモンハン事件。8.30阿部内閣成立。9.4第2次世界大戦起きる)	・
15年	1940	1月。徳山村信用販売購買利用組合設立(4組合合併)。4月徳山村立青年学校設立(1.15.静岡大火5100戸全焼。大政翼賛会設立)	3.9.松下賢一戦死
		(7.22.第2次近衛内閣成立。9.27日独伊軍事同盟成立)	5.20松下増治。湖北省で戦死(下原自身)
		(11.10紀元二千六百年祝賀行事)	・
16年	1941	4月小学校を国民学校と改称。青年団解散。青少年団結成。徳山村森林組合設立。産業組合で国民健康保険事業開始。4.1.国民学校令施行。	・
		(7.18第3次近衛内閣成立。8.12米の二重価格制決まる)	5.6.松下二代治
		(12.8大東亜戦争勃発。東条内閣成立)	戦死(下原出身)
17年	1942	勝山平四郎村長就任。徳山村婦人会。大日本婦人会徳山分会に改組。(2.1衣料切符割実施。6.5~6.6ミッドウェー海戦で大敗。9.21食糧管理法公布。勝山仙崎カナル島に	(下原)戦死

# 四季の里より

秋の深山紅葉をめぐりて、連休や、土、日曜を中心に、車やバスで、沢山の皆様が四季の里へ立寄って下さいます。その中にはふる里通信ご購読の方もいらっしゃるかも知れませんね。全国にいらっしゃるふる里出身の皆様、お電話、お葉書などにて、ご注文下されは、即発送させていただきます。手づくり郷土産品の他に、自然化粧品へ化粧水、乳液、クリームも好評です。

これまで、お正月に休んでいて、迷惑をおかけしましたが、年末は三十日まで、正月は、四日、五日、開いておりますから、ふる里のお正月を楽してみがてら、どうぞ四季の里にお寄り下さい。お待ちしております。

住所 428-03 榛原郡中川根町下長尾四五三ノ三

四季の里 宛  
定休日 月曜日



## 定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。  
1部 千円 150円  
皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年間4回(季刊誌)の発行を予定しております。今回で購読期間の切れる方には、郵便振替用紙を同封致しますから引き続き、ご購読をお願いします。年間予約600円のご送金をおすすめします。購読期間が切れて半年以上ご連絡が無い時は、終りとさせていただきます。住所変更のありも是非ご連絡下さい。

ふる里通信に関する問い合わせ先  
428-03 榛原郡中川根町上長尾859-6  
小沢節子 宛  
TEL 0547-56-0015

### お払込通知票

口座番号 名古屋(7)-81556  
加入者名 中川根ふる里通信係

※ 楽しみにしていた「ふる里ツアー」申し込みされた方が少なかった為、中止となってしまいました。又直接役場の方へ申し込まれた皆様、申しわけございませんでした。

又の機会に、中川根出身の皆様にご寄っていただく計画をたてさせていたしたいと思います。

※ ふる里通信 秋の号の発刊が半月以上遅れてしまいました。九月中旬より十月中旬にかけて私用があったためと十二月三日(中川根町産業文化祭)に発表した徳山城関係の冊子を作ったため、取りかかりが大幅に遅れてしまいました。おわび申し上げます。

※ NHK大河ドラマ太平記も終わりに近づいて来ました。あの時代前、北遠、北駿の山地はすでに集落が多数存在しております。

現、佐久間、水窪一帯は、奥山氏、春野、大井川西側一帯は、天野氏、旧東川根、徳山、世間一帯は、土岐氏(小長谷氏)と豪族が地域を束ねておりました。しかも、南北朝時代、全て南朝方に味方しております。

※ 徳山の森之段には土岐氏の館があったと言われますし、無双連山、山頂には徳山城(土岐の山城)があった事はご存知の方が多くは思われますが、真相は判らない事はかりでした。昭和の初期、城跡などを研究された、沼館三三氏(故人)の「無双連山を中心とする諸城址の研究」と言う論文が、手に入りました。次回号より載せていきたいと思っております。

※ 今年も小さい秋を入れました。色あいはいかがでしょう。